

育児支援，メンタルヘルス

日本赤十字社医療センター第二産婦人科 笠井 靖代

KEY WORDS

- 周産期メンタルヘルス
- 妊娠うつ病
- 産後うつ病
- 不安障害
- 高齢妊娠

Maternal depression and management among women of advanced maternal age.

Yasuyo Kasai (部長)

はじめに

メンタルヘルス不調にある妊産婦を早期に見つけ、多職種で地域と連携しながら育児支援の対策を立てていくことは、最近の母子保健に関する重要課題の1つと位置づけられている。

本稿では、高齢妊娠・出産とメンタルヘルス不調についてのいくつかの報告を紹介し、メンタルヘルス支援のための基本的な対応について解説する。

I. 高齢妊娠とメンタルヘルス不調

若年妊娠とメンタルヘルス不調の関連はこれまでにいくつかの報告がみられるが、高齢妊娠とメンタルヘルス不調については、いくつかの限定的な条件下でその関連が示されるにとどまっている。何をメンタルヘルス不調の指標とするか、また高齢妊娠の条件設定がそれぞれの報告によって異なるが、

以下にいくつかの報告を紹介する。

カナダの報告では、2007～2008年に実施された人口調査から20～44歳の母親を抽出し、世界保健機関(WHO)が推奨する構造化面接法の1つであるCIDI (Composite International Diagnostic Interview) Short Formを指標として用いて、対面あるいは電話での面接が行われた¹⁾。5点以上をうつ病と診断し、最近5年間で死産を除く出産経験があるか否かの2群に分けて解析した。うつ病は最近出産した群では8.9% (207/2,326例)、6年以上経過した群では10.6% (597/5,610例)にみられた。教育、婚姻関係、母体合併症の有無で調整して30～35歳を基準とすると、最近出産を経験した40～44歳群におけるうつ病発生率の調整オッズ比(odds ratio : OD)は3.72 [95%信頼区間(CI) 2.15-6.41]、出産後6年以上経過した40～44歳群の調整ORは0.75 (95%CI 0.56-1.01)であった。また初産婦に絞った解析では、40～44歳群